

1.2025年大阪・関西万博について

- (1).万博の概要
- ①万博の変遷・意義
- 万博は1851年ロンドン万博から始まり今回に至る。当初は「国威発揚」が大きな目的であったが、時代の変化とともに目的を変え、近年では「課題解決型」にあり方が変化している。

➤当委員会として本万博は「社会課題解決×経済成長」に繋がるものと捉えている。万博を通じて、社会課題解決を実現し「時代の画期」となること、経済成長の礎となること、双方に大きな意義がある。
- ②本万博のテーマ：『いのち輝く未来社会のデザイン』
- 本万博は「課題解決型」であり「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとしている。「いのち」という原点に立ち戻り、自らと他者のいのちを意識し、世界が持続する未来を模索する。

➤コンセプトは「未来社会の実験場」であり、本万博は新たな技術やシステムを実証する場である。

(2).万博の取組み	万博の取組み				
➤本万博は上記のテーマ達成に向け多様な取組みが存在する。大屋根リングや各パビリオンに象徴されるハード面に加え、ソフト面は幅が広い。万博会場外においても、テーマに沿った関連イベント・催事が存在する。	<table><tr><th>ハード</th><th>ソフト</th></tr><tr><td>・大屋根リング ・パビリオンや像など建造物 ・会場周辺の交通インフラ</td><td>・ハード以外すべて 技術、取組み、アイデア、 つながり、仕組みなど</td></tr></table>	ハード	ソフト	・大屋根リング ・パビリオンや像など建造物 ・会場周辺の交通インフラ	・ハード以外すべて 技術、取組み、アイデア、 つながり、仕組みなど
ハード	ソフト				
・大屋根リング ・パビリオンや像など建造物 ・会場周辺の交通インフラ	・ハード以外すべて 技術、取組み、アイデア、 つながり、仕組みなど				

2.大阪・関西を『いのち輝く未来社会』に

- (1).ソフトの定義・重要性
- レガシーの対象には大きく分けて「ハード」・「ソフト」が存在するが、当委員会では「ソフト」に着目したい。

➤「ソフト」は広義の社会課題解決に繋がるといった大きなインパクトがあり重要度が高い。また目に見えないものであることから、行動を続けなければ消え去ってしまう懸念がある。
- (2).『いのち輝く未来社会』の実現のために
- ①目指すべき社会像
- 「いのち輝く未来社会」とは、万博の理念やその実現に向けた様々な取組みが「継承・発展」されることにより、社会課題解決×経済成長が達成されている社会であると考える。

➤特に「いのち」に関する多種多様な取組み〔ライフサイエンス、産業高度化（AI活用等）など〕がレガシーとなることで実現に繋がる。
- ②『追体験』・『進体験』の重要性
- 万博は一過性であり、閉幕後は記憶が薄れてしまうため、「一時的な体験」を「持続的な資産」に変えることが必要である。そのためには『追体験』・『*進体験』が有効な手段の一つである。これらを通じ、参加者だけでなく参加できなかった人に対しても、閉幕後も万博の理念・感動・学びを提供し、その価値を再認識させることができる。

*進体験：万博期間中の取組みが、さらに進化して体験できること。

➤『追体験』・『進体験』の理想はリアル^①の場での体験だが、物理的・時間的制約を乗り越えるためにデジタル^②も活用し、子供や若者を含む幅広い世代に体験機会を提供することも肝要である。

- (3).大阪・関西が先陣を切る
- 本社会像には様々な要素があるが、まずは大阪・関西の強みであるヘルスケアの特色を活かし、『健康かつ長く生きる』ことを目指したい。

➤「健康かつ長く生きる」社会においては、生み出された個人の時間を、より充実したものにすることも重要である。人の手助けとなる『省人化・自動化』の推進により、作業を減らし、充実した時間を生み出すことが可能となる。

➤上記2点について、本万博では、「ヘルスケア」、「自動化」の様々な取組みがあるが、その中でも『健康寿命の延伸』・『日本最大級の実証実験である自動運転』といった代表的なものに言及し、これらを継承・発展させることで、本社会像の実現に向けて大阪・関西が日本全体の中で先陣を切ることを目指す。

3.課題

- (1).『いのち輝く未来社会』全体にかかる課題
- ①万博の取組全体をレガシーとするために　⇒提言Ⅰへ
- コンテンツや情報は集約されることで発信力があがる。現状は、出展者それぞれが閉幕後のアクションを検討してはいるものの、取りまとめる主体組織が不在である。

- ②より多くの技術の実装化について　⇒提言Ⅱへ
- 万博では多様な技術があり、「いのち輝く未来社会」の実現にはこれらの実装が重要なファクターである。また、技術を残すためには技術そのものが認知されることも重要である。

➤出展の多くを占める中小企業・スタートアップは、閉幕後のアクションの検討まで至らない先が多く、万博の取組みが一過性となる懸念がある。
- (2).大阪・関西が先陣を切るための課題
- ③健康かつ長く生きるために　⇒提言Ⅲ－①へ
- 健康寿命と平均寿命の乖離（約10年）があり、健康寿命の延伸が求められている。

➤個々人が「体年齢」や「*生物学的年齢」を把握し、それらを若返らせることが重要であるが、測定やその行動が一般的に普及していない。　　　*生物学的年齢：体年齢よりも個々の健康状態を詳細に評価でき、健康寿命の延伸に向けたより適切な行動に繋げることの出来る指標。
- ④省人化・自動化について　⇒提言Ⅲ－②へ
- 省人化・自動化の中でも、自動運転はアメリカや中国など一般顧客向けのサービスが普及し始めている国もあり、諸外国と比較して実装化が遅れている分野の一つである。

➤自動運転の実証実験は、日本各地で実施されているが、規模・期間が限定的となっている。

➤実装化には「技術力」「法規制」「インフラ整備」「国民の理解」等、課題が山積している。

4.提言

本提言は目指すべき社会像における構成要素の一部に対して言及している。今後は本提言をきっかけに、様々な領域において社会像の実現に向けた検討が行われ、多様なアプローチに繋がることを期待したい。

いのち輝く未来社会全体への提言	提言Ⅰ　理念継承発展のために、主体組織の設立を	
	提言先：経済産業省、大阪府・大阪市、2025年日本国際博覧会協会	
	➤一刻も早い主体組織の設立により、レガシーを残すためのリーダーシップ発揮を	
大阪・関西が先陣を切るための提言	・閉幕後に関係者が離散し取組みが途切れぬよう、博覧会協会の後継組織を早期に設立すべき	
	・各分野においても、主体となる組織がレガシーを残す活動を行うべき	
	提言Ⅱ　より多くの技術の実装化に向け、追体験・進体験の場の提供を	
健康かつ長く生きる	提言先：主に自治体、万博の出展者	
	➤技術実装化に向けた認知度向上のため、追体験に加え、進体験の場の提供を	
	・展示会・商談会などの催事の実施、映像記録の集約・発信等を行うべき	
省人化・自動化	・出展者は追体験の場への継続的な参加に加え、技術を実現・発展させた『進体験』を提供すべき	
	提言Ⅲ　大阪・関西が『いのち輝く未来社会』実現の先陣を切る	
	教育、コミュニティの継続、文化・芸術、運営、ホスピタリティ、林業・木の活用、エネルギー、サーキュラー、カーボンニュートラル、観光・MICE等、以下2つの提言につづく第3・第4の項目は多数存在する。本提言では現段階で期待する2項目を示す。	
大阪・関西が先陣を切るための提言	提言Ⅲ－①　大阪・関西が健康寿命延伸をリードするべく、意識変容・行動変容を	
	提言先：主に国・自治体	
	➤「体年齢」や「生物学的年齢」の浸透を図り、具体的な行動変容を	
健康かつ長く生きる	・個々の健康状態を把握できるよう、「体年齢」に加え、細胞レベルでの加齢度を示す「生物学的年齢」の測定の場を増加して、健康意識の向上を促すべき	
	・それぞれの健康状態に適した若返りの行動を推進すべき	
	提言Ⅲ－②　より充実して過ごすために、時間を創出する自動運転の推進を	
省人化・自動化	提言先：主に国・自治体	
	➤万博の取組みを一過性とせず、大阪・関西を自動運転の最先端都市に	
	日本最大級の大規模実証実験を継続させ、技術の改善・機運醸成に繋げるべき	
大阪・関西が先陣を切るための提言	➤実装化の障壁を取り除き、諸外国と遜色のない外部環境の構築を	
	補助金拡充、インフラ整備、規制緩和等により、諸外国からの遅れを取り戻すべき	
	提言Ⅲ－③　・・・	
健康かつ長く生きる	提言Ⅲ－④　・・・	

おわりに

万博レガシーについて言及をしてきたが、目指しているものは「いのち輝く未来社会」であり、未来社会で暮らしているのは、今の子供や若者である。万博の様々な取組みについて、閉幕後も子供や若者が体験する機会を設け、将来に対しての希望を持ち、視座を高めることを望みたい。